

## 会 議 録

会議名	平成26年度 第6回 丸亀市行政評価委員会
開催日時	平成26年9月2日(火) 14:30~16:30
開催場所	丸亀市役所 本館2階第1会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p style="text-align: center;">岡本 恵子    金    永子    黒田 英津子    日野 明世 森    茂    石原 茂    早馬 倫代</p> <p>(説明のために出席した者)</p> <p style="text-align: center;">市長公室長    山田 哲也    政策課長    小山 隆史 政策課副課長    渡辺 研介    政策課担当長    富士川 貴 政策課主査    真鍋 裕章</p>
議 題	<p>1. 事業評価について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	なし
発言者	議事の概要及び発言の要旨
小山政策課長	<p>それでは、平成26年度第6回の丸亀市行政評価委員会を開会いたします。本日の議題は、前回に引き続き、事業評価となっております。以後、会長に議長をお願いします。</p>
金会長	<p>議事に入ります前に、本日8名の委員のうち7名のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>それでは、「議事の1 事業評価について」ですが、前回の続きで、事業No.5-①の「家庭児童相談事業費」から、ご意見ををお願いします。</p>
森副会長	<p>事業内容から見て、この「家庭児童相談事業費」と事業No.5-②「児童虐待・DV対策等支援事業費」は、一括りで評価すべきと思います。</p>
岡本委員	<p>ヒアリングの時にも、予算は分かれています、1つの事業として行っているなら、予算も一括りにしてはどうかという話があったと思います。</p>
金会長	<p>どちらかの事業を廃止にして、1つだけ残せばよいという考え方はありませんか。</p>
政策課真鍋	<p>家庭児童相談室の設置とその充実強化で予算が分かれていますので、どちらかを廃止するというよりは、一括りという考え方になると思います。</p>

岡本委員	実態が1つの事業として行われているので、1つの評価でよいと思います。
金会長	<p>それでは、事業No.5-①と5-②は1つの事業として評価することとします。その理由については、コメント欄に記載するようにしてください。では、評価に戻ります。両事業について、ご意見をお願いします・</p>
岡本委員	<p>「拡充」ですが、相談員が足りないので増員する必要があるというだけでなく、相談業務に忙殺されている職員が他の子育て支援業務との兼務のため、その人員不足が1つの事業と留まらず、子育て支援課の業務全体に影響を及ぼしていると感じました。平成26年度に1名増員されましたが、それによしとするのではなく、平成27年度に向けて、さらなる増員が必要と思います。</p>
森副会長	<p>「拡充」ですが、人員を増やすより、管理システムの構築による事務の効率化を図るべきと思います。</p>
金会長	<p>他に意見もないようですので、採決に入ります。 本日欠席の委員については、事前に評価をいただいておりますので、そこに1票を加えることとします。</p> <p>&lt;拡充6、改善2&gt;</p>
金会長	<p>「拡充」が多数になりました。次に、事業No.5-③の「地域組織活動育成事業費」について意見をお願いします。</p>
岡本委員	<p>かつては、すべての保育所にあった母親クラブが3つまで減少しています。他にも様々な子育て支援策が展開されるようになる中で、この補助金も長年続いてきましたが、役割を終えたということで「廃止」にしました。また、「補助金見直し等基準」に照らしても、補助金として問題があると思います。</p>
金会長	<p>原点に戻って、必要性や公平性、意義付けをきちんと見直した上で、続けるか否かを決めるべきということで「改善」にしました。できないようなら、廃止もあり得ると思います。</p>
黒田委員	<p>「縮小」にしましたが、1組織5万円の定額支給は慣習的で、それがどのような活動に使われているのか、どれくらいの受益があるのか分かりません。まずは、本当に必要な額への見直しが必要と思います。また、母親クラブのない地域の方が多いので、この補助金を使わなくても、既存の事業の中で対応できることがあるのではないかと思います。</p>

金会長	「廃止」にしてもよいと感じますが、5万円の補助金を切ることによって、どれくらい活動に影響が出るのでしょうか。
森副会長	組織が残っている以上は、何らかの影響があると思います。
早馬委員	3つの母親クラブが子育て支援に効果のある活動をしているなら、残してもよいと思い、「改善」としています。
岡本委員	各母親クラブの決算を見ると、5万円の補助金がなくなることですぐに活動が行き詰まるという状況ではないと思います。それだけしっかりとした活動ができていくということでもありますので、母親クラブへの補助金を「廃止」するだけで、母親クラブの自主的な活動はこれまで通り続けて欲しいと思います。
金会長	では、採決に移ります。  <改善4、維持1、縮小1、廃止2>  「改善」多数となりました。ただし、「廃止」や「縮小」も視野に入れた改善であり、補助金の使い方や額などには問題があるという見方を付け加えておきます。 次に、事業No.5-④の「発達障害児支援協働事業費」について意見を申し上げます。
岡本委員	丸亀独自の事業で、NPOとの協働もうまくいっていますが、予算的にも人員的にも汲々としており、専門図書の入手や人材育成など必要な取組が後回しにしながら、何とかやりくりをしているのが実情です。対象児童が増加している現状を見ると、子どもたちの健全育成のために、今後さらなる対応が求められると思いますので、ぜひとも「拡充」が必要ではないかと思います。
森副会長	現時点では「維持」としましたが、これから、対象者が今以上に増えた場合には、柔軟に「拡充」という意味も含んでいます。
日野委員	ヒアリングでも大変さが伝わってきましたし、現実的に対象者も増加しています。人材育成など短期間ではできないことにも取り組んでいく必要がありますので、今ここで「拡充」すべきと思いました。
金会長	他に意見もないようですので、採決します。  <拡充4、改善2、維持2>

岡本委員	<p>「拡充」多数となりました。</p> <p>続いて、事業No.6-①の「児童館管理運営費」について意見ををお願いします。</p> <p>「改善」ですが、指定管理者制度を導入しているとはいえ、あくまでも市の施設ですので、任せきりにするのではなく、児童館をどのように活用するか、どのような役割を担うのかといった核となる方針は市が示すという姿勢を持っておいて欲しいと思います。</p>
日野委員	<p>児童館を利用している人と利用していない人との間で、その機能や役割などの認識に差があるように感じます。市民に児童館に対する共通認識が生まれるよう、本来の機能や役割を明確化して、広報していく必要があると思い、「改善」としました。</p>
金会長	<p>他に意見もないようですので、採決します。</p> <p>&lt;改善8&gt;</p> <p>全会一致で「改善」となりました。</p> <p>次に、事業No.6-②の「ファミリーサポートセンター事業費」について意見ををお願いします。</p>
岡本委員	<p>おねがい会員とまかせて会員のアンバランスを見ると、まだまだ運営がうまくいってないように思います。社会福祉協議会に委託していますが、市として、どこに問題があって、うまくいっていないのかは把握しないといけないと思いますので、「改善」としました。</p>
金会長	<p>「維持」としましたが、事業が始まって、まだ5年程度しか経っていませんので、長い目で見て、様子見の時期かと思います。</p>
森副会長	<p>実際に、おねがい会員の方が多くなるのは、必然的な流れのように思いますし、しばらくは状況を注視するという事で「維持」にしました。</p>
金会長	<p>他に意見もないようですので、採決します。</p> <p>&lt;改善3、維持5&gt;</p> <p>「維持」多数となりました。</p> <p>次に、事業No.6-③の「子育て短期支援事業費」について意見ををお願いします。</p>

森副会長	もう少し、ニーズの掘り起こしをした方がよいと感じましたので、「改善」としました。
黒田委員	「拡充」にしましたが、実施施設が1つしかないことに問題があるのではないかと思います。もっとニーズはあるはずなので、実施施設の増加等それを拾い上げられる体制づくりが重要になると思います。
日野委員	同じく、複数の施設で対応できるような方法が取れないかと思い、「改善」としました。預ける側にとっては、日常的に忙しい児童養護施設で十分な対応がしてもらえるのか不安で、気軽に預けられる状況にないと思います。特にトワイライト事業は受け手を見つけるのが難しいとは思いますが、検討して欲しいと思います。
金会長	他に意見もないようですので、採決します。  <拡充1、改善6、維持1>  「改善」多数となりました。 次の事業No.6-④の「小手島保育ママ事業費」については、事務局から補足説明があります。
政策課真鍋	この事業については、平成25年度で対象児童がいなくなったので、現在は完了しています。そのため、事業の方向性の評価も様々な視点からの評価が入り混じっておりました。そこで、将来的にこのような事業を温存させておくべきかどうかという視点から、再度評価して欲しいと思います。よって、同じようなケースが発生した場合に、このような事業はもうしなくてよいという考えなら「廃止」、また再開すべきという考えなら「維持」となります。いかがでしょうか。  <了承>
金会長	その場合、再度、事業説明をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。
政策課真鍋	資料を用意しますので、先に事業No.6-⑤の「私立保育園援助費」に進んで、その後ということではよろしいですか。
金会長	わかりました。それでは、事業No.6-⑤の「私立保育園援助費」について意見ををお願いします。

岡本委員	「改善」にしましたが、今、年度途中に発生している待機児童をうまく無くせるような形にするために「拡充」にした方がよいとも思います。
森副会長	女性の社会進出のためには、「拡充」が必要と思います。
金会長	待機児童といえば、高松の年度途中の発生理由として、転勤が大きく関係していると聞きましたが、丸亀の場合はどのような理由が考えられますか。
早馬委員	早めに申込みをしておけば、保育士の確保など条件が整って、待機児童にならなくて済むケースもありますが、そういったことがあまり知られていません。
小山政策課長	年度途中に待機児童が発生する大きな要因は、保育士の確保が難しいことにあります。
金会長	年度途中に待機児童が発生しても、翌年度当初には解消するということは、基本的にはニーズは充たせていると考えてよいのでしょうか。
日野委員	年齢の低くなるほど、預かれる園が少なくなるので、早く預けたい働く女性ほど需要と供給にギャップが生じているという状況にあると思います。
黒田委員	待機児童の問題もありますが、女性の社会進出が進めば進むほど、長時間の保育、特別保育のニーズも増えてきます。そうなると、保育士等の待遇にも改善が必要になるということで、「拡充」にしました。
金会長	他に意見もないようですので、採決します。  ＜拡充 5、改善 3＞  「拡充」多数となりました。 最後に、事業No.6-④の「小手島保育ママ事業費」について、事務局の説明をお願いします。
政策課渡辺	＜資料配布、説明＞
金会長	意見があればお願いします。
岡本委員	この事業のおかげで、どこに住んでいても保育を受けることができ、働くことができるという安心に繋がっていると思います。子育て支援を前面に打ち出す中で、このような視点を失わないで欲しいと思います。

日野委員	<p>このような素晴らしい事業があることは、もっとアピールしてもよいと思います。</p>
金会長	<p>他に意見もないようですので、採決します。</p> <p>&lt;維持7&gt;</p> <p>「維持」多数となりました。評価の視点が変わりましたので、欠席委員については、事務局から確認しておいてください。</p> <p>これで、すべての事業の評価が終わりました。今後の日程について事務局からお願いします。</p> <p>&lt;日程等調整&gt;</p>
金会長	<p>それでは、以上で本日の議事は終わります。お疲れさまでした。</p>